第２３回　花の国づくり共励会

花き技術・経営コンクール
受賞者の業績概要

平成２６年３月

一般財団法人日本花普及センター

第２３回花の国づくり共励会
花き技術・経営コンクール

表　　彰　　式

平成２６年３月１４日（金）１３：３０～
農林水産省共済組合「南青山会館」
東京都港区南青山５－７－１０

表　彰　式　次　第

１　開会あいさつ

２　審査講評
審査委員長　日本大学生物資源科学部　教授　腰岡政二

３　賞状授与

農林水産大臣賞	２点
農林水産省生産局長	３点
一般財団法人日本花普及センター会長賞	２点

４　祝　辞

５　記念撮影

６　懇談会
表彰式と記念写真撮影の終了後、出席者による懇談会を開催

２第２３回花の国づくり共励会
花き技術・経営コンクール　受賞者一覧表

【農林水産大臣賞】

大築　義雅　　（おおつき　よしまさ）
大築　実千代　（おおつき　みちよ）
（株式会社大築園芸）
〒990-0823　山形県山形市下条町１－４－５９

フカヤスリーエフクラブ
（構成員５戸　　代表者　関和勝宏　）
〒366-0813　埼玉県深谷市境６３３－１

【農林水産省生産局長賞】

坂戸　明夫　（さかと　あきお）
坂戸　チヨ　（さかと　ちよ）
〒028-5303　岩手県二戸郡一戸町小友字坂ノ下５０番地２

荒木　祥充　（あらき　よしみつ）
〒441-3622　愛知県田原市和地町一色２

吉塚　正弘　（よしづか　まさひろ）
吉塚　友子　（よしづか　ともこ）
〒854-1105　長崎県諫早市飯盛町後田１６９７

【一般財団法人日本花普及センター会長賞】

高橋　昭利　（たかはし　あきとし）
〒502-0931　岐阜県岐阜市則武１０２

ＪＡテラル越前　キク部会　（じぇいえいてらるえちぜん　きくぶかい）
（代表者　三浦　慶昭）
〒912-0015　福井県大野市中挟１－１３０１
ＪＡテラル越前　指導販売部営農特産課内

第２３回花の国づくり共励会　花き技術・経営コンクール

審　査　講　評

第２３回花の国づくり共励会花き技術・経営コンクールは、花の国づくり都道府県協議会などより推薦がありました経営体について、６名の審査委員による提出された書類に基づく第１次審査と、現地での第２次審査を通して厳正に行われました。その結果、本共励会の最高賞である**農林水産大臣賞には、次の２経営体**が選ばれました。

山形県山形市の大築義雅・実千代夫妻は、鉢物と苗物の複合経営を行っています。大築義雅氏は、昭和４６年に就農しました。当時父親は水稲と野菜の複合経営を営んでいましたが、アメリカでの１年間の農業研修の後、野菜作に取り組みました。一方、大築実千代氏は昭和５０年の結婚と同時に就農しました。昭和５５年からは切り花栽培に取組み、その後、平成４年に花壇苗栽培を、平成１０年には２年間の農業研修を受けた後継者の就農を機に鉢物栽培を始めました。さらに、平成１７年には有限会社「大築園芸」を設立、平成２２年には株式会社「大築園芸」に移行することでより安定した生産体系を構築しています。現在では、ミニシクラメン、カーネーション、ハボタン等の鉢物と花苗生産に経営を絞り、大築義雅氏が経営総括を、大築実千代氏が労務管理と苗物栽培管理を、次男夫婦が鉢物栽培管理を担当しています。

栽培面においては、きめ細かい生育調節に対応した灌水、地域気象や作物生育に適した施肥管理、水分や肥料の調節を可能にする用土作り、反射マルチ資材の利用やヒートポンプの導入など栽培環境の整備など、知識の集積と工夫により、高品質化と高い商品化率を実現しています。

販売戦略においては、品評会での受賞による知名度の向上、オリジナルブランド名の生産者組織の立上げ、鉢数管理による高い出荷率、市場中心の出荷体系の確立などで安定した評価を受けています。

就業面においては、大築義雅氏を含めた家族４名に加え、雇用労働として１３人を契約しています。高設ベンチの利用による労力の軽減や融雪促進型連棟ハウス導入による苗移動労働の軽減、ワークシェアリング体系の導入などで、長期雇用を目指した働きやすい職場環境作りに十分な配慮がなされ、労災保険、雇用保険に加入するなど、地域雇用の活性化においても活躍しています。

このように、鉢物生産経営において、創意工夫により安定した生産・販売を維持していること、山形県花き生産連絡協議会会長として花き園芸の振興や花育活動に尽力していること、地域の雇用を創出し農業を担う人材育成をしていること、過去３年間の出荷数量、経営収支とも安定していることなどが高く評価され、農林水産大臣賞に値すると判断されました。

埼玉県深谷市のふかや農業協同組合フカヤスリーエフクラブは、平成１１年にユリ切り花生産者の５名によって設立されました。スリーエフとは、深谷のＦ、フラワーのＦ、フーチャーのＦからなり、深谷市で未来に渡りユリを作ることを意味しています。現在の代表者は

関和勝宏氏ですが、構成員は運営、会計、出荷などで分担責任者として務めています。
組織的な生産活動としては、高品質なユリの切り花生産を目的に、球根の芽出し、灌水管理、蒸気消毒、土壌診断による施肥設計などの技術情報の共有化を図り、オリエンタル系ユリから冬季栽培管理温度の低いＬＡハイブリッドユリの作付けを増やすことで収益を確保し、燃料コスト削減に取組んでいます。また、実需者や球根販売業者と連携して、次世代を担うスペシャル品種の試験栽培や、独法や県の試験研究機関との連携による香り抑制試験など、需要拡大を目指した試験などにも取組んでいます。出荷に当たっては、花の輪付きやボリュームによる３段階の出荷基準を設け、ブランドとしての出荷を進めています。出荷時期、出荷量などの出荷計画を市場など実需者に情報提供するとともに、取引先市場と予約注文販売を行っています。
栽培技術では、定期的な土壌診断に基ずく施肥設計、減肥や堆肥の投入などの施肥改善に取り組み、過剰施肥防止によるコスト低減や花の鮮度保持、切り花ボリュームの確保などの品質改善に繋げています。
労務管理では、球根の定植や出荷調整など労働ピークに合わせた雇用労力の活用を図り、選花機を活用した省力化などの作業改善に努めています。
組織化によって市場向けに生産情報を提供し、安定した販売に取組むことで計画生産体系を確立し、これにより、施設のローテーション、球根の準備、植付けの計画的な実施により経営効率を向上させ、顧客ニーズに合わせた企業的経営が実践されています。
このように、ユリ切り花生産経営において、創意工夫により安定した生産・販売を維持していること、環境に配慮した生産を実施していること、過去３年間において出荷数量、経営収支ともに安定していること、地域の花き生産振興に寄与していることなどが高く評価され、農林水産大臣賞にふさわしい花き生産の模範となる経営体であると判断されました。

農林水産省生産局長賞に選ばれました次の３経営体は、農林水産大臣賞に選ばれました経営体に収益性、あるいは、経営の安定性の上で僅かに及ばないものの、以下に述べる点で高く評価されました。

岩手県二戸郡一戸町の坂戸明夫・チヨ夫妻は、リンドウ専作経営を営んでいます。坂戸明夫は、昭和４１年に就農しました。当時は、酪農と葉タバコの複合経営でした。一方、坂戸チヨ氏は、昭和４７年の結婚を機に就農しました。平成元年の原木シイタケ栽培、平成８年のリンドウ導入を経て、平成１２年からはリンドウ専作経営に移行しています。さらに平成２１年からの長男夫妻の就農を機に規模拡大を図り、堅実な経営を維持しています。栽培においては、均平な圃場づくり、定植直後の培土と灌水、株元除草、定期的防除の実施など、定植年度の管理を徹底することで、定植１０年目の圃場でも収量を維持しています。また、地域に先駆けて省力的栽培法に取組み、雪融け前施肥法の実用性を検証し地域に普及しています。市場視察や意見交換会から、消費ニーズや市場要望の把握に努め、規格外品においても独自販売先の確保により、出荷ロスを減らし高単収を維持しています。地域においては、生産者圃場の巡視会や出荷規格の改善、新品種や新技術の普及などで、さらには農作業体験のための農家民泊事業に協力するなど積極的に貢献しています。このように、安定した経営を実現し、地域農業の発展にリーダーシップを発揮していることが評価されました。

愛知県田原市の荒木祥充氏は、鉢物専作農家です。平成１２年に２４歳で就農し家族経営の一部から、平成１５年にはほぼすべてを任されるようになりました。それを機に、アンスリウム、スパティフィラムの２品目から小ロット多品目体制へと経営転換しました。さらに平成１７年にはオリジナルブランドを立ち上げるなど、規模拡大、設備投資も順調に行われています。栽培に当たっては、市場や消費者の要望を踏まえ海外から年間５０～６０品目の苗を導入し、自社で栽培して製品にするリレー栽培システムを構築しています。また、オリジナルブランドを基に情報発信と有利販売など、効率的な販売体制の構築にも熱心です。環境に配慮した化石燃料を使わない施設の利用や、保水性の高い用土を用いたつり下げ栽培による施設空間の効率的利用などの独自の取組みがみられます。フレックスタイム制の導入や軽量用土の使用など、雇用環境に配慮した経営が行われています。さらに、途上国の子供たちへの支援活動にも貢献しています。高い栽培技術、経営管理能力を有して高品質・高収量を収めるなど地域の模範となるものと期待されています。このような先駆的な経営哲学を基に、安定した生産をあげていることが評価されました。

長崎県諫早市の吉塚正弘・友子夫妻は、カーネーションとガーベラの複合経営を営んでいます。吉塚正弘氏は、昭和５４年に就農し施設ナス栽培に取組みました。昭和６０年からカーネーションを導入し、翌年からはカーネーション専作となりました。そのような中、吉塚友子氏は経営管理と労務管理に取組み安定的な経営に寄与しています。その後、後継者が就農したことで平成２１年よりガーベラ栽培を加え経営の安定化を図っています。平成９年に夫婦間で家族経営協定を締結しましたが、平成１６年には後継者も加えて協定を見直すことで、家族の作業分担と責任を明確にして経営効率を高めています。輸入品との競争が激しいカーネーション生産にあって、長崎県との共同によるオリジナル品種の育成・導入、日持ち試験への取組みなど種々の工夫により生産を維持しています。栽培管理に当たっては、ベッド栽培や隔離ベンチ栽培の利用、オリジナルな植栽方法の考案、シルバー反射マルチ資材の導入などで、高品質化を図っています。また、養液土耕システムの開発、頭上灌水やヒートポンプの導入など新技術や設備投資にも積極的であります。さらに、ガーベラ栽培を取り入れることで周年雇用を実現し、労働力の安定雇用を確保しています。このように、花き生産におけるブランド化の創出のみならず地域農業の発展のためにリーダーシップを発揮していることが評価されました。

一般財団法人日本花普及センター会長賞に選ばれました次の２経営体は、以下に述べる点で評価され本賞に値すると判断されました。

岐阜県岐阜市の高橋明利氏は、バラ生産者での研修を経て昭和４７年に就農しバラ栽培を開始しました。昭和５９年には県内で初めてとなるロックウール栽培を導入し、平成３年には全面的にロックウール栽培に切り替えました。その後、軽作業でも取組める品目としてガーベラを選び、平成１０年から３年を掛けて高設ベンチでのロックウール栽培に品目転換しました。栽培面では、独立ポット方式の養液栽培による病害の拡散防止やロックウールキューブ苗の定植による省力化､パッドアンドファンやファンバーナーの利用によるコスト低減、燃油削減と生育促進、さらにはキャッピングマシンによる出荷調整作業の省力化を図っています。このように、効率的な生産のための技術開発、地域の雇用に対する貢献などが評価されました。

福井県大野市および勝山市管内のＪＡテラル越前キク部会（代表者：三浦慶昭氏）は、昭和４５年頃に奥越花卉生産組合として発足し、県内最大のキク産地に成長しました。平成１８年からはテラル越前キク部会として再発足して、現在４４戸が加入しています。生産者の負担と環境に与える負荷を軽減した栽培を心がけ、平成２１年に生産者全戸がエコファーマーとして認定されています。出荷数量等を綿密に分析することで、大阪市場のみならず地元福井市場においても、キク生産組織としての責任を果たしています。経営の合理化にはバーコードラベルを導入することで、品種別の等級や単価等の解析による適切な品種選択や市場の振り分けが可能になりました。このように、地域の生産組織活動の活発化や福利厚生活動の充実により、後継者が参入しやすい環境づくりによる花き生産の維持が評価されました。

わが国の花き産業は近年堅調な推移を維持しているものの、農業を取り巻く環境と同様に依然厳しい状況にあります。そのような中で、国内外の花き審査会・種苗審査会において、わが国の花き栽培技術・育種技術が高く評価されているのが救いと言えます。それを反映して、今年度の審査においても生産額や収益を着実に伸ばしている経営体の推薦が多数あったことに心強く感じました。そのような経営体では、栽培技術の高度化により生産効率を高めるとともに、生産コストや環境負荷の低減に努める一方、消費者ニーズに合う品目・品種の選択、あるいはブランド品目の育成、さらに新しい需要の開拓にも力を注いでいます。このような生産活動と同様に、地域の活性化や雇用の創出さらには後継者教育や花育にも努力をされていることには、頭が下がる思いがしました。

受賞者の皆様方には心からお祝いを申し上げますとともに、わが国の花き産業の発展のため、今後とも一層のご尽力を賜りますようにお願いし、審査講評といたします。

平成２６年３月１４日
審査委員長
腰　岡　政　二

【農林水産大臣賞】

大築義雅　大築実千代　（株式会社大築園芸）（山形県）
鉢物・苗物（ミニシクラメン、カーネーション、ハボタン、その他花苗）

大築義雅氏は、昭和４６年に就農し、父親の補助として水稲、キュウリ、トマト等の栽培に携わったが、昭和４７年３月から１年間国際農友会企画の研修に参加し、アメリカ・カルフォルニア州の野菜農家において研修を受けた。

帰国後、キュウリ栽培の主担当となり、昭和５０年には、施設野菜を導入しマスクメロン等の栽培を行ったが連作障害が発生したため、昭和５５年にはストックの栽培に切り替え、市場関係者から品質について高い評価を受けたことから、品目はトルコギキョウ、シュッコンカスミソウ、ベニバナ等に拡大し、全国各地に出かけ先進的な技術を積極的に習得した。

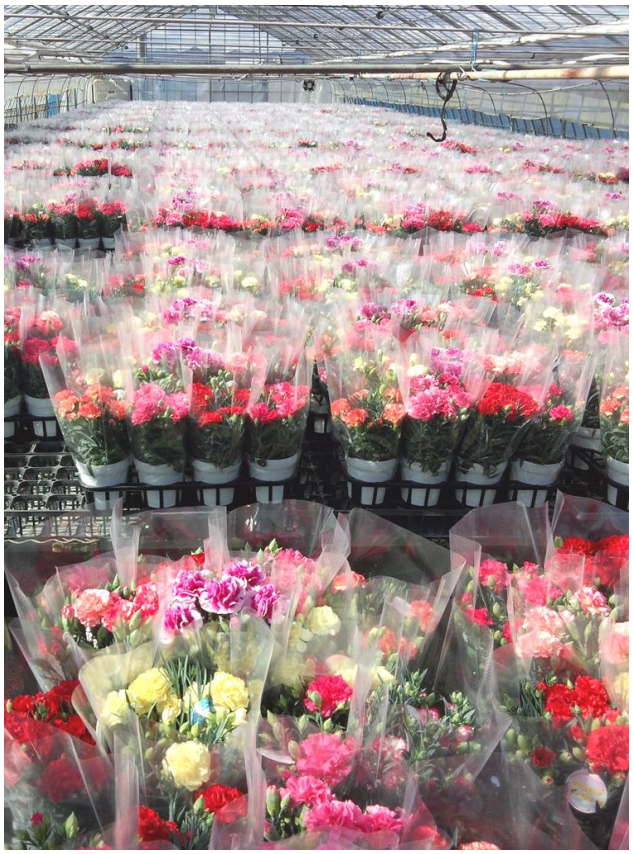
平成８年に次男が就農を希望した際には、自分の経験から就農前の研修を勧め、１年目は、国際農友会の研修を利用してアメリカ・オレゴン州のバラ農場で、２年目は、福島県の生産者の下でシクラメン等の研修を受け、平成１０年の就農を機に現在の主力品目であるミニシクラメン、ポットカーネーションの栽培を本格的に開始した。

なお、平成８年には、地域内で花壇苗を生産している３人と、低コスト化や商品のブランド化を目的に「北の花さかじいさん鉢物研究会」を設立し、初代会長に就任するとともに、平成１７年に「有限会社大築園芸」を設立し代表取締役に就任、平成２２年には、「株式会社大築園芸」に移行し現在に至っている。

栽培技術について特に工夫している点としては、ミニシクラメンやポットカーネーションの品質は、土壌中の水分や肥料の量・種類に大きく左右されるので、高品質生産による市場評価の向上と出荷ロス率の低減を目標に、基肥は極力減らして、手かん水と液肥によって生育に合わせた管理ができるようにしている。その他、用土の素材や配分をオリジナルで調整していること、ヒートポンプの導入により高品質生産と灰色かび病等
によるロスの軽減に結び付けている。労働軽減や雇用管理等では、栽培管理者の足腰にかかる負担を軽減するため手作りの高設ベンチの設置、施設内の温・湿度管理による快適な作業環境整備、ハウス谷部の融雪促進型連棟ハウスの導入によってスペーシング労働の軽減を図っている。また、ハボタンやその他の花壇苗品目を導入することで熟練した従業員を継続して雇用できるよう工夫しているほか、義雅氏が総括、実千代氏がハボタン等花壇苗、次男義夫氏がミニシクラメンとカーネーションの栽培責任者となって役員間での役割分担を明確にしており、従業員の精神的負担の軽減と問題の早期解決に繋げている。環境保全、省エネルギーの部面でも新しい被覆資材の導入、効率的な加温方法の実施、生育に合わせてスペーシング作業や循環扇の活用による多湿条件の回避と農薬使用量の削減、在庫管理の徹底による無駄な経費の削減等を行っている。

大築氏は、市場や地域で開催される品評会事業には積極的に出品し高い評価を受けており、最近では「やまがたフラワーフェスティバル２０１３」において農林水産大臣賞を受賞している。また、国内外問わず研修生の受入れを行い、担い手育成にも積極的に取組むとともに、平成１６～１９年には２期にわたって山形県鉢物協議会の会長を務め、平成２０年からは山形県花き生産連絡協議会の会長として、県内の花き生産者の地位向上や花き振興、県民の花消費啓蒙啓発活動に尽力している。

株式会社大築園芸の経営陣（左から大築義雅　大築実千代　大築義夫、大築絵里奈）
５月の母の日向け　ポットカーネーションのハウスにて



ポットカーネーションの出荷前ハウス

ミニシクラメンの出荷前ハウス

よっちゃんシクラメンのラベルと出荷ケース

【農林水産大臣賞】

フカヤスリーエフクラブ（構成員５戸　代表者　関　和　勝　宏）（埼玉県）
切り花（ユリ）

フカヤスリーエフクラブは、平成１１年４月に設立した５名の生産者で構成する任意組織である。名称のスリーエフとは、深谷市の Ｆ、フラワーのＦ、未来を表すフューチャーのＦの総称であり、深谷市で将来にわたってユリ切り花生産に取り組む組織であるという意味がこめられている。

現在、グループの取り組みに賛同した若手生産者２名を含む５名（平均年齢４８．８歳）で運営しており、代表者（関和勝宏氏）は、平成２２年から２代目となり、設立当初からの代表者（島田　誠氏）は、顧問となって運営をアドバイスしている。また、会には、会計担当（塚越健一氏）を置き、会計全般と出荷についての分荷責任者を務める。出荷・代金決済は、ふかや農協、ＪＡ全農さいたまを通じて行い、研究・行政機関からは、技術支援を受けつつ研究協力を行っている。

組織的な生産活動としては、高品質なユリ切り花生産を目的に、需要期前を中心にメンバー全員で栽培検討会を行うことにより、生育状況を把握して必要な技術について情報交換を行っている。共販活動としては、新たな需要を掘り起こすために、実需者や球根業者と連携して、ユリでは珍しい八重咲きの品種や色、花型などに特徴があり、球根供給量が少ない品種等次世代を担う新たな品種を「フカヤスリーエフクラブスペシャル品種」として毎年１２～１５品種程度試験栽培に取組んでいるほか、花の輪付き、ボリュームにより３段階の出荷基準を設け、厳しく選別するとともに、他産地とのネットワークの強化により球根の供給や各産地の栽培・販売情報など情報交換を行い、産地間での位置確認と競争につながる環境づくりに取組んでいる。なお、ユリ切り花生産の担い手育成についても積極的で、研修終了後に各地に戻ってスリーエフクラブの名称を使用した販売に取組めるよう配慮している。

栽培技術で工夫している点では、定期的に土壌診断を行い、減肥や堆肥の投入など施肥改善に積極的に取組んでいる。また、過去のデータと比較して、継続的にほ場の状況を確認している。蒸気消毒を活用する上で、その欠点である土壌の無機化の進行を抑えるために、家畜ふん尿堆肥の投入や土壌診断結果に基づく施肥設計によりほ場の肥沃度を確保している。

労働軽減や雇用管理等については、球根の定植や出荷調整など労働ピークに合わせた雇用労力の活用を図り、選花機を活用したり作業の動線の改善を行うなど作業改善に努め選花作業の省力化に取組んでいる。

組織化によって市場向けに生産情報を提供して、安定した販売に取組むことを強く意識し、計画生産に取組んでいる。これにより、物日など需要の時期から逆算して施設のローテーションや球根の準備、植付けを計画的に実施し、経営効率が向上している。即ち、従来の花き経営から脱却して、顧客ニーズに合わせた企業的経営の実践である。　　フカヤスリーエフクラブは、ユリの計画生産、出荷体制が整っており、大きい需要への対応としてモデルとなる団体である。また、二酸化炭素排出低減のためにヒートポンプの導入拡大を進めるとともに、土壌蒸気消毒を行うなど環境には配慮した生産を行っており、産地全体のリーダー的存在である。

フカヤスリーエフクラブ構成員（左から高野哲也　島田　誠　関和勝宏　塚越健一　小島敏明）
切り花ユリの栽培ハウスにて(構成員によるほ場巡回時)

フカヤスリーエフクラブの栽培ＬＡユリ（ビューソレイユ）と出荷作業及び出荷箱

【農林水産省生産局長賞】

坂戸明夫　坂戸チヨ（岩手県）
切り花（リンドウ）

坂戸明夫氏は、昭和４１年に就農、当時は酪農と葉タバコの経営であった。昭和４７年にチヨ氏と結婚し、チヨ氏が就農。平成元年に作目を原木シイタケに変更したが、価格低迷により採算が合わず他品目への変更を検討し、町の特産品目であり、地域の豊富な沢水や水田を有効活用できるリンドウが有望と判断した。平成８年に導入を開始し、毎年面積を増やし、平成１２年には完全なリンドウ専作経営に移行した。その後、長男とその妻が帰郷し親元就農したことを機に更に規模拡大を行い現在に至っている。

地域は、中山間地でほ場に標高差があるが、地の利を生かし品種の組合せによって、需要期である盆及び秋の彼岸に出荷量をピークとした６月下旬～１１月上旬までの長期出荷を実現している。

栽培に当たっては、酸素要求量の大きい花きの特性を考え、水はけの良いほ場作りを徹底していること、病害虫対策としてウイルス病の感染を防ぐため、収穫時は勿論、収穫後の残茎除去も手作業で行っており、ウイルス病株は極めて少なく抑えている。これらの結果として、１０アール当たりの収量を安定的に確保しており、加えて過去３年の平均単価は、地域の平均単価を上回り品質面でも優れている。また、定植年の管理を徹底すること（均平なほ場作り、定植直後の培土とかん水、株元除草、定期的防除の実施等）で、２年目から高い収量を確保し、更に、地域では、定植５～６年目で収量が低下することが多い中、定植１０年目を経過したほ場でも収量を維持している。

施肥の改善については、普及センターと協力して展示ほを設置し「雪解け前施肥」が実用的であることを明らかにして地域に波及しているほか、耕種的防除に加え薬剤散布法の改善により薬剤使用回数を最小限に抑えるなどの工夫を行っている。

労働軽減や雇用管理等では、日々の作業が計画的かつスムーズに進むように段取りや効率を考え、家族での打合せを毎日行い、特に、リンドウでは、農繁期が８～９月の高温期であるため家族だけでなく雇用者の健康管理にも気を配り、農繁期であっても家族の作業時間は概ね１９時までに終えるようにしているほか、作業中のこまめな水分補給や栄養バランスの良い食事を取るよう日々管理している。

明夫氏は、現在、ＪＡ新いわて奥中山花き生産部会一戸支部長として、出荷規格の改善の提案、岩手県新品種の栽培展示、普及センター実証ほへの協力等地域農業の振興、並びに一戸町消防団長となって、地域住民の安心と安全を守るリーダーとして活動しているほか、東日本大震災時には、一戸支部として同県野田村おいてボランティア活動を行う等地域に積極的に貢献している。チヨ氏は、町主催のグリーンツーリズム研修でドイツ、スイス、オランダを視察した経験があり、坂戸家では、グリーンツーリズム活動の一環として、町が行った農家民泊事業に協力して他県の小学生～高校生の宿泊及び農作業体験の受入れを行っている。また、町が実施している「園芸産地トレーナー」での若手生産者等へのアドバイスや、昨年からリンドウの自家採種～栽培に取組んでいる。

【農林水産省生産局長賞】

荒木祥充（愛知県）
鉢物（アンスリウム、フィロデンドロン、アナナス類、カラテア、ヘリコニア等）

荒木祥充氏は、平成１２年結婚と同時に就農し、それまで農業以外で培った経験を生かして、海外生産者や種苗会社と積極的に情報交換を行い新品種の導入や新たな販路の確保、拡大に努めている。

平成１７年には、オリジナルブランド「ＡＯＰＦ．ＪＰ（荒木　オーナメンタル　プランツ　ファーム　ジャパン）」を立ち上げ、観葉植物の多様性という魅力が失われ、観葉植物としての価値が低下することを危惧し、他にどこにも無い品目を豊富、かつ高品質に顧客に届ける経営を目指している。

栽培に当たっては、市場からの要望も踏まえ、オランダ、ドイツ、アメリカから年間５０～６０品目の苗を導入し、小ロット多品目生産へ経営転換するとともに、海外から苗を輸入して自社で栽培して製品にするリレー栽培を行っている。製品には、黒地に白く「ＡＯＰＦ．ＪＰ」と印刷したオリジナルラベルを付けており、非常に目立ち、商品購入の目印になってリピーターの獲得に生かされている。また、施設の利用率を上げるために、アナナス類、シダ類、リプサリス等の着生植物は、鉢を施設の梁や谷材に吊り下げ空間を活かした栽培を行っている。吊り下げ栽培は、用土が乾きやすいという欠点があるが、保水性が高い自家製用土を用いることで、かん水回数を減らしている。

労働軽減や雇用管理等については、品目に応じた多様な用土作成の労力を軽減するため、あえてどの品目も軽量なヤシガラを主体とした自家製の用土に統一して用土作成の時間を短縮するとともに、軽量化されたことにより鉢の移動や出荷労働の負荷軽減に繋げている。従業員は、全員が子育て中の女性であることからフレックスタイムの導入や、当日朝の欠勤申し出にも柔軟に対応しており、育児と仕事が両立できるよう配慮している。また、女性が効率的に働けるよう施設内の通路幅を広く取り、施設内の動線に余裕を持たせるとともに、作業台の高さを揃えたり、軽量な台車の活用により重労働の軽減に努めている。

環境保全や省エネルギーについては、炭酸ガス排出量の削減のために、暖房機メーカーと共同研究を重ね電気式温湯加温機を設置したり、新設した栽培施設は、高気密・高断熱設計のダッチライト型で、省エネを目指す施設となっている。なお、新設のハウスにおいては、化石燃料を使用しない施設であり、環境に配慮した営農を実践しており先駆的な取り組みである。また、ヤツデ、ユキノシタ等日本に自生する植物や、ヘリコニア、シダ類といった冬に低温で栽培できる植物を導入し、保温効率の悪いビニールハウスを有効利用して重油使用量の低減に努めている。

荒木氏は、ＪＡ愛知みなみ鉢物部会に所属しており、平成２３年には、役員を勤め地域の鉢物生産者とともに渥美半島の鉢物のＰＲをしたり、愛知県花き連のイベントへの出店などの企画立案を行った。３年前から「国際連合児童基金（ユニセフ）」に１鉢１円を寄付する「フォーエバースマイルキャンペーン」を行っている。出荷するオリジナルラベルを印刷する際、１枚につき１円をユニセフに自動的に寄付されるものであり、このような活動を一生産者が独自に行うのは、国内では初めてであろう。

【農林水産省生産局長賞】

吉塚正弘　吉塚友子（長崎県）
切り花（カーネーション、ガーベラ）

吉塚正弘氏は、昭和５４年に就農した。就農当時、両親は、肉用牛肥育を主体にバレイショ、ニンジン等の栽培を行っていた。昭和５６年に両親とは別に施設ナス栽培を開始、昭和６０年にはカーネーション栽培を開始し、以降カーネーション専作となって計画的に規模拡大を行った。

平成１４年に長男が就農したのを機に平成１５年以降更に規模拡大を図るとともに、平成２１年から経営の補完品目としてガーベラを導入し、夏場の収入源としている。

正弘氏、妻友子氏、長男勇樹並びに長男の妻沙矢佳氏は、４名連名で家族経営協定を結んでおり、各自の責任意識を高めるため役割分担をしている。この中で友子氏は、昭和６０年より複式簿記記帳を行い、普及組織のパソコン簿記記帳指導を受けながら経営管理に積極的に取組んでいる。これまでの規模拡大に当たって、記帳に基づく経営管理技術が活かされおり、安定的な大規模経営が実現しているのは、友子氏の高い経営管理意識と技術が大きく寄与している。

栽培に当たっては、茎の軟弱な品種はパイプハウスのベット栽培を行い、温度や光などで徒長しにくい品種については硬質フイルムハウスの隔離ベットで栽培するなどし、それぞれの施設の特徴を活かした栽培技術の開発と高品質化を実践している。また、植栽方法を従来よりも４分の１程度疎植にする部会独自の方法を考案し、採用しているほか、夏季の高温対策として頭上かん水設備の設置、カーネーションの全ほ場にシルバー反射マルチ資材を導入し、反射光による株下への受光量を増大させことで採花本数の増加と品質向上につなげている。なお、県のオリジナル品種育成への取り組みに当たっても、農業技術センターの交配育成品種の現地選抜展示ほ場として当初から協力しており、県オリジナル品種「だいすき」は、フロリアード２０１２（オランダ　国際園芸博覧会）の品種コンテストで９．１８点（１０点満点評価で金賞相当）と高く評価されるなど生産者と県が連携した取り組みとして成果をあげている。

出荷・販売に当たっては、所属部会において、市場の協力を得てカーネーションの日持ち試験に取組んだ結果、供試した５品種すべてが１４日以上の日持ちが確認され、高品質であることを直接アピールすることができ、「最後の一輪まで咲く花の産地」との評価を得ることができた。労働軽減や雇用管理等については、系統別に液肥混入量を調節できる独自の養液土耕システムを地元企業と共同で開発し、かん水施肥時間を大幅に削減するとともに、補完品目としてガーベラを導入することにより周年雇用が可能となり、労働力の安定確保につなげている。更に、環境保全や省エネルギーについても、エコファーマーの認定を受け、土づくりや農薬・化学肥料の低減に向けた取組み、全施設への換気設備の設置、被覆資材の工夫等を行っている。

正弘氏は、長崎花き園芸農業協同組合カーネーション部会長のほか、地域では、消防分団長、子供会の会長を務めるかたわら、県営ほ場整備事業の推進員、換地員として園芸ハウスの団地化・集約化に努めている。友子氏は、生活改善グループに所属し、消費者との交流を通じた食文化の伝承、地場産品の消費拡大にも取組んでいる。また、後継者の勇樹氏は、フラワーアレンジメントの技術を活かし、花育やフラワーバレンタイン活動を行うとともに、東日本大震災の復興支援活動にも積極的に参画している。

【一般財団法人日本花普及センター会長賞】

高橋明利（岐阜県）
切り花（ガーベラ）

高橋明利氏は、就農前他業種に就いていたが、農業に魅力を感じ、愛知県のバラ農家での研修を経て昭和４７年に就農した。父親は、養鶏を行っていたが、父親の理解もあって１０ａの温室を建設してバラ栽培を開始し４０ａまで拡大した。

しかし、栽培年数を重ねるとともに根頭がんしゅ病などの土壌病害が発生し、植替え作業が重労働であることから昭和５９年に試験栽培を兼ねてロックウール栽培を導入し、平成３年には全面的にロックウールに切り替えた。その後、バラの販売単価が低迷し、年齢を重ねたこともあり軽作業で取組める品目を探し、種苗会社の視察で花色等が豊富で周年出荷ができ、パートタイマーでもできる軽作業がほとんどであるガーベラに魅せられ、平成１０年から導入し３年かけて品目転換を行った。

なお、これまで岐阜市内で栽培を行っていたが、施設が基幹道路に面し、市街化の影響で環境が次第に悪化していることから、一部を整理しつつ平成２１年、２２年に隣接する本巣市内に温室を新設した。

ガーベラの栽培方式は、温室の移転とともに培地に１ｃｍ角ロックウールを利用した独立ポット方式の養液栽培を行っている。各株が独立し、植替え時に熱湯消毒することで長期間培地が利用でき、土壌病害の広がりも防いでいる。植替えは地上部をナイフで切取り、ロックウールキューブに植えた苗を置いていくだけの軽作業であることや、高設ベンチ方式であることからシルバー人材センターの臨時雇用を活用している。また、植替えサイクルは、３年更新を行っている産地が多いが、３年目は収量が半減することから２年更新を基本にしている。

次に、栽培管理上創意工夫している点としては、自作パットアンドファンによるコスト低減と秋収量増対策である。ガーベラは、夏場の高温で草勢が衰え、一般的に秋出荷が本格化するのは１０月下旬からとなっている。パットアンドファンを利用することで、外気温に比べ－５℃程度の効果があり、本数が減るものの夏季も収穫が出来るとともに、秋は１０月上旬から本格出荷が可能となり、１０月のブライダル需要への注文販売が可能となるなど大きなメリットを生んでいる。これにより１０ａ当たり収量は、全国平均を大きく上回っている。また、市販のクールパットは高価であることからコスト低減を図るため、遮光ネットを３枚重ねそれに井戸水を垂らす方式を考案し、同等の効果を上げるとともに大幅なコスト削減を図っている。

以上のほか、ファンバーナー（炭酸ガス発生暖房機）利用による生育促進と燃油削減、ガーベラ「キャッピングマシン」を自作し出荷調整作業の省力化を図っている。なお、バラの栽培時に開発した硫黄燻蒸器「こなでん」は、バラの主要病害であるうどんこ病防除のほか、いちご栽培等で広く普及している。

高橋氏は、過去の技術にこだわることなく、効率的な生産が行えるよう自由な発想で様々な工夫や機器の開発を行って、広く全国に開示している。

また、シルバー人材センターからの雇用促進や県立国際園芸アカデミーの学生等就農を希望する研修生を受け入れるなど、地域の雇用及び担い手の育成にも積極的に取組んでいる。

【財団法人日本花普及センター会長賞】

ＪＡテラル越前キク部会（代表者　三浦慶昭）（福井県）
切り花（コギク、リンギク）

ＪＡテラル越前キク部会は、大野市並びに勝山市管内にあるＪＡテラル越前指導販売部に事務局を置くキクの共選出荷組織である。

奥越地域においては、昭和３０年代から特産品を模索し、当該地域がキク作りに適していることを見出し、昭和４５年ごろ、当時の生産者有志（３２名）が集まって奥越花卉生産組合を発足させた。当地域は、寒暖の差が大きく、色つやがよく日持ちするなど高い品質で、県内最大のキク産地となり県内及び関西方面に出荷してきた。

昭和６０年に農協有の集出荷場を整備し、平成２年には冷蔵庫を整備するなど付帯機器の導入を図りつつあるが、農家数、生産額ともにピーク時に比べ落ち込みが大きい。　平成１８年からＪＡテラル越前キク部会として再発足し、現在４４戸（平均年齢６２歳）が加入しているが、生産量の減少を抑えるため、独自の品種育成、エコ規格の設定等生産、出荷部面での検討が行われている。

部会の組織は、部会長、副部会長の下に総務部、生産部（指導担当、種苗担当、資材担当）、出荷部（市場対策担当、共選担当）があり、部会は班体制になっている。３部以外に女性部と青年部が置かれている。組織全体の事務は、女性の事務担当を置き、出荷電算処理、総務事務補助、女性部運営補助、各組織運営補助を行っている。

部会の活動として実施している事項は、次のとおりである。

（１）生産活動　・生産資材の共同購入による費用削減
　　・定植本数の確認による出荷量予測
　　・作見会の実施（年３回）
　　・品質の向上のため出荷時の検品結果（病害虫の有無や葉、花の汚れなど）を部会員毎に速やかに通知
（２）共販活動　・全量共選共販
（３）その他　　・活発な女性部活動：フラワーアレンジメントの技術習得、冬季の学習開催等
　　・老人福祉施設への定期的な切り花贈呈など地域社会への貢献

栽培技術で工夫している点は、福井県で初めて暮れ植え作型を導入し、降雪地ならではの施設を必要としない作型を中心に栽培を行っている。

また、フェロモントラップによる病害虫発生予察により生産者の負担と環境に与える負荷を軽減した栽培を心がけ、平成２１年に生産者全戸がエコファーマーとして認定された。その後、農薬等使用回数を減らす栽培体系を確立し、農薬購入経費の節減、上位等級率の向上等により、収益が増加している。

労働軽減や雇用管理等については、部会員だけで行っていた出荷時の検品補助や積み込み作業の当番を、シルバー人材センターの活用により削減を行い、出荷も運送会社に隣接した場所に集出荷場を設置しているので、出荷数量や日時の調整を行いやすくするとともに、輸送コストの低減も目指している。また、平成１７年からバーコードラベルの導入を行ったので、品種別の等級や単価等の解析ができるようになり、適切な品種選択や市場の振り分けに効果を発揮している。

（参考資料１）

花の国づくり共励会　花き技術・経営コンクール受賞者一覧

平成26年3月14日

回(年度)	受賞区分	都道府県	受賞者名	生産品目	備　考
23回(25年度)	農林水産大臣賞	山形	大築義雅　大築実千代	ミニシクラメン、カーネーション、ハボタン、その他花苗(鉢物・苗物)	
23回(25年度)	農林水産大臣賞	埼玉	フカヤスリーエフクラブ (代表者　関和勝宏)	ユリ(切り花)	
23回(25年度)	生産局長賞	岩手	坂戸明夫　坂戸チヨ	リンドウ(切り花)	
23回(25年度)	生産局長賞	愛知	荒木祥充	アンスリウム、フィロデンドロン、アナナス類、カラテア、ヘリコニア，シダ類等(鉢物)	
23回(25年度)	生産局長賞	長崎	吉塚正弘　吉塚友子	カーネーション、ガーベラ(切り花)	
23回(25年度)	(一財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	岐阜	高橋明利	ガーベラ(切り花)	
23回(25年度)	(一財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	福井	JAテラル越前キク部会 (代表者　三浦慶昭)	コギク、リンギク(切り花)	
22回(24年度)	農林水産大臣賞	福島	金澤善浩	カーネーション、シクラメン、シュウメイギク、プリムラポリアンサ、プリムラマラコイデス等(鉢物・苗物)	
22回(24年度)	農林水産大臣賞	愛知	株式会社豊楽園 (取締役会長　斎藤豊治) (代表取締役社長　斎藤健治)	フィロデンドロン、フィットニア、プミラ、ワイヤープランツ、シンゴニウム、ペペロミア等(鉢物)	
22回(24年度)	生産局長賞	福岡	花田哲治　花田泰子	バラ、ユリ(切り花)	
22回(24年度)	生産局長賞	沖縄	新垣　進	コギク(切り花)	
22回(24年度)	生産局長賞	石川	金沢市砂丘地集出荷場フラワー部会	ストック、切花ハボタン、フリージア(切り花)	
22回(24年度)	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	佐賀	坂井浩一郎	キク(切り花)	
22回(24年度)	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	岩手	いわい東農業協同組合花き部会小菊専門部	コギク(切り花)	
21回(23年度)	農林水産大臣賞	佐賀	小柳誠五　小柳一枝	ユリ(切り花)	
21回(23年度)	生産局長賞	神奈川	有限会社五領ケ台ガーデン (代表取締役　窪田敬一)	シクラメン、ニューギニアインパチェンス、ナスタチューム、プリムラジュリアン等(鉢物)	
21回(23年度)	生産局長賞	愛知	稲垣長太郎	カーネーション(切り花)	
21回(23年度)	生産局長賞	長崎	有限会社金原園芸 (代表取締役　金原由紀男)	キク(切り花)	
21回(23年度)	生産局長賞	熊本	坂崎改輝　坂崎久子	シュッコンカスミソウ(切り花)	
21回(23年度)	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	埼玉	吉澤明弘	シクラメン、ハイビスカス、オステオスペルマム、ビオラ、クリサンセマム等(鉢物)	
21回(23年度)	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	福岡	牛島博文	ガーベラ(切り花)	
21回(23年度)	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	岐阜	JAひだ花卉出荷組合菊部会 (代表者　野谷智樹)	キク(切り花)	
20回(22年度)	農林水産大臣賞	埼玉	有限会社横川花園　代表取締役横川保次	ユリ、チューリップ、ギボウシ等(鉢物)	
20回(22年度)	生産局長賞	岐阜	河合　　修	アルストロメリア(切り花)	
20回(22年度)	生産局長賞	福岡	安田　克徳 安田　節子	サカキ、花桃、ニュウサイラン、しめ縄、門松、松竹梅等(花木・枝物類)	
20回(22年度)	生産局長賞	長崎	山口　政則 山口　和代	カーネーション(切り花)	
20回(22年度)	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	愛知	伊藤　正規	シンビジウム、コチョウラン、ミルトニア(鉢物洋らん類)	
19回(21年度)	農林水産大臣賞	埼玉	塩原　茂夫	アジサイ、ポインセチア(鉢物)	
19回(21年度)	農林水産大臣賞	大分	有限会社お花屋さんぶんご清川 代表取締役社長　小久保恭一	リンギク(切り花)	第49回農林水産祭 天皇杯受賞
19回(21年度)	生産局長賞	宮城	石巻農業協同組合 花卉部会ガーベラ班	ガーベラ(切り花)	
19回(21年度)	生産局長賞	愛知	櫛田 倉司	リンギク(切り花)	
19回(21年度)	生産局長賞	大阪	梶本 定敏	ユリ、アイリス等(球根切り花)	

回(年度)	受賞区分	都道府県	受賞者名	生産品目	備　考
18回(20年度)	農林水産大臣賞	愛知	小松　英雄	アンスリーム(鉢物)	
18回(20年度)	農林水産大臣賞	福岡	浜野　重登 浜野　明美	バラ(切り花)	
18回(20年度)	生産局長賞	埼玉	安藤　　貢	アガパンサス等(苗物)	
18回(20年度)	生産局長賞	岐阜	有限会社サンコフ	セントポーリア等(鉢物)	
18回(20年度)	生産局長賞	大阪	稲治　義彦	シャクヤク等(露地花き)	
18回(20年度)	生産局長賞	長崎	柴田　定實 柴田　富子	キク(切り花)	
18回(20年度)	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	佐賀	石井　克明	バラ(切り花)	
17回(19年度)	農林水産大臣賞	埼玉	黒臼　秀之	コチョウラン(鉢物)	
17回(19年度)	農林水産大臣賞	岐阜	吉田　正博	ガーベラ等(鉢物)	
17回(19年度)	生産局長賞	千葉	平野　圭祐	アンスリウム(切り花)	
17回(19年度)	生産局長賞	神奈川	加藤　　悟	シンピジウム(鉢物)	
17回(19年度)	生産局長賞	愛知	平野　和美 平野　照美	ポインセチア等(鉢物)	
17回(19年度)	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	佐賀	石橋　正基	カーネーション(切り花)	
16回(18年度)	農林水産大臣賞	千葉	丸朝園芸農業協同組合 花卉部 (部長)飯高　重雄	サンダーソニア等(切り花)	
16回(18年度)	農林水産大臣賞	福岡	空閑　善実 空閑　桂子	パンジー等(苗物)	
16回(18年度)	生産局長賞	鹿児島	サンライズグリーンヒル観葉生産組合 (代表者)福留　健一	オーガスタ等(観葉植物)	
16回(18年度)	生産局長賞	愛知	伊藤　勝久	シクラメン等(鉢物)	
16回(18年度)	生産局長賞	長崎	立石　俊一	バラ(切り花)	
16回(18年度)	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	岩手	澤瀬　一男 澤瀬ロシタ	コギク等(切り花)	
16回(18年度)	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	大阪	大　阪	パンジー等(苗物)	
16回(18年度)	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	佐賀	佐　賀	キク(切り花)	
15回(17年度)	農林水産大臣賞	埼玉	田島　　嶽	ガーデンシクラメン(苗物)	
15回(17年度)	生産局長賞	群馬	小倉　文雄	シクラメン等(鉢物)	
15回(17年度)	生産局長賞	愛知	内藤　完次	バラ(切り花)	
15回(17年度)	生産局長賞	長崎	JA壱岐市花き部会 (代表者)下條利一	コギク等(切り花)	
15回(17年度)	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	岐阜	高木　兼雄	スパティヒィラム(鉢物)	
15回(17年度)	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	沖縄	玉城　昌伸	キク(切り花)	
15回(17年度)	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	沖縄	藏下　良彦	キク(切り花)	
14回(16年度)	農林水産大臣賞	東京	八丈島農業振興青年研究会 鉢物部会 (代表者)大沢猛邦	フェニックス等(鉢物)	
14回(16年度)	農林水産大臣賞	岐阜	株式会社西垣園芸 西垣　正俊	オステオスペルマム(苗物)	
14回(16年度)	生産局長賞	宮城	株式会社ハニーローズなんごう (代表者)檜山 恒雄	バラ(切り花)	
14回(16年度)	生産局長賞	愛知	株式会社H&Lプランテーション 鵜飼　敏之 鵜飼　　浩	パンジー等(苗物)	
14回(16年度)	生産局長賞	福岡	高橋　三千年 高橋　節子	バラ(切り花)	
14回(16年度)	生産局長賞	鹿児島	小村　幸一	パキラ等(観葉植物)	
14回(16年度)	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	大阪	神藤　正和	ハボタン等(苗物)	
14回(16年度)	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	大阪	谷嵜　隆雄	ハナモモ等(切り枝花木)	
14回(16年度)	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	徳島	尾崎　進一郎	シンピジウム(鉢物)	
14回(16年度)	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	佐賀	松永　宏隆	ユリ(切り花)	
14回(16年度)	(財)日本花普及ｾﾝﾀｰ会長賞	長崎	JA東長崎菊部会 (代表者)松尾 修一	キク(切り花)	

回(年度)	受賞区分	都道府県	受賞者名	生産品目	備　考
13回(15年度)	農林水産大臣賞	徳島	有限会社岸本農園 岸本　　昇 岸本ときこ	ハイビスカス等(鉢物)	
13回(15年度)	農林水産大臣賞	鹿児島	有限会社南原農園 南原　武博	ジャスミン等(切り花)	
13回(15年度)	生産局長賞	岐阜	有限会社白木園芸 白木　和彦 白木ふさ子	レッドロビン等(洋蘭・観葉植物)	
13回(15年度)	生産局長賞	佐賀	宮崎　憲治	スイトピー等(切り花)	
13回(15年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岐阜	JAひだ花卉出荷組合 益田支部 (代表者)中川　剛	キク等(切り花)	
13回(15年度)	(財)日本花普及センター会長賞	愛知	山田　則明	カーネーション等(切り花)	
13回(15年度)	(財)日本花普及センター会長賞	福岡	緒方　久幸	ガーベラ(切り花)く	
13回(15年度)	(財)日本花普及センター会長賞	長崎	西海菊出荷組合 (代表者)川内 通良	キク(切り花)	
12回(14年度)	農林水産大臣賞	愛知	石井　義明	アルストロメリア(切り花)	第42回農林水産祭 内閣総理大臣賞受賞
12回(14年度)	生産局長賞	埼玉	成澤　勝司	マリーゴールド(苗物)	
12回(14年度)	生産局長賞	鹿児島	柴嵜　喜好	アイビー等(切り花)	
12回(14年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岩手	石川　正樹 石川　結花	ユリ(切り花)	
12回(14年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岐阜	川端　芳彦 川端　葉子	ユリ等(切り花)	
12回(14年度)	(財)日本花普及センター会長賞	香川	稲田　良弘	コチョウラン(鉢物)	
12回(14年度)	(財)日本花普及センター会長賞	香川	小西　幸彦	マツ(盆栽)	
12回(14年度)	(財)日本花普及センター会長賞	佐賀	徳永　健史	コチョウラン(切り花・鉢物)	
11回(13年度)	農林水産大臣賞	埼玉	小林　滋幸	カランコエ((鉢物)	
11回(13年度)	農林水産大臣賞	長崎	JA北高電照菊研究会 (代表者)大谷 虎次	キク(切り花)	
11回(13年度)	生産局長賞	埼玉	田中　　勲	シクラメン等(鉢物)	
11回(13年度)	生産局長賞	岐阜	河野　鉄博 河野　常子	ラナンキュラス等(切り花)	
11回(13年度)	生産局長賞	愛知	林　　富造 林　　房子	シンピジウム(鉢物)	
11回(13年度)	生産局長賞	佐賀	菖蒲　正行	トルコギキョウ等(切り花)	
11回(13年度)	(財)日本花普及センター会長賞	奈良	中辻　栄治	キク(切り花)	
11回(13年度)	(財)日本花普及センター会長賞	広島	石田　律恵	レースフラワー等(切り花)	
11回(13年度)	(財)日本花普及センター会長賞	徳島	阿部　雅志	シンピジウム(鉢物)	
11回(13年度)	(財)日本花普及センター会長賞	香川	森　　崇	バラ(切り花)	
11回(13年度)	(財)日本花普及センター会長賞	福岡	高杢　義邦	ユリ等(切り花)	
10回(12年度)	農林水産大臣賞	岐阜	大西　　隆	ミニバラ(鉢物)	第40回農林水産祭 天皇杯受賞
10回(12年度)	農林水産大臣賞	鹿児島	沖永良部花き流通センター (代表者)泉　貞吉	テッポユリ等(切り花)	
10回(12年度)	生産局長賞	群馬	林　　康夫	シクラメン等(鉢物)	
10回(12年度)	生産局長賞	香川	農事組合法人香花園 (代表者)保坂重雄	カーネーション(切り花)	
10回(12年度)	生産局長賞	大分	有限会社メルヘンローズ (代表者)小畑和敏	バラ(切り花)	
10回(12年度)	生産局長賞	沖縄	玉城　哲弘	キク(切り花)	
10回(12年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岩手	谷藤　幸子	リンドウ等(切り花)	
10回(12年度)	(財)日本花普及センター会長賞	山梨	農事組合法人 白根フラワーコーポラティブ	インパチェンス等(鉢物)	
10回(12年度)	(財)日本花普及センター会長賞	愛知	伊奈　義就	キク(切り花)	
10回(12年度)	(財)日本花普及センター会長賞	徳島	宮脇　　孝	キク(切り花)	
10回(12年度)	(財)日本花普及センター会長賞	香川	藤本　傳夫	キク(切り花)	
10回(12年度)	(財)日本花普及センター会長賞	福岡	中園　英治	キク(切り花)	
10回(12年度)	(財)日本花普及センター会長賞	長崎	江頭　富春	カーネーション等(切り花)	
10回(12年度)	(財)日本花普及センター会長賞	鹿児島	富田　良成	バラ(切り花)	

回(年度)	受賞区分	都道府県	受賞者名	生産品目	備　考
9回(11年度)	農林水産大臣賞	埼　玉	奥富　良雄	チューリップ等(苗物)	
9回(11年度)	農林水産大臣賞	愛　知	角田　隆幸	ハボタン等(苗物)	第39回農林水産祭 内閣総理大臣賞受賞
9回(11年度)	農産園芸局長賞	宮　城	宮城県南三陸農業協同組合 花き部会	キク(切り花)	
9回(11年度)	農産園芸局長賞	山　梨	渡辺　喜市	サンダーソニア等(切り花)	
9回(11年度)	農産園芸局長賞	滋　賀	小杉　長男	シクラメン等(鉢物)	
9回(11年度)	農産園芸局長賞	沖　縄	大城　清利	キク(切り花)	
9回(11年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岩　手	菅原　武男	リンドウ(切り花)	
9回(11年度)	(財)日本花普及センター会長賞	栃　木	田代　正行	カーネーション(切り花)	
9回(11年度)	(財)日本花普及センター会長賞	埼　玉	木村　　実	バラ(切り花)	
9回(11年度)	(財)日本花普及センター会長賞	長　野	中村　元夫	ディフィニウム等(切り花)	
9回(11年度)	(財)日本花普及センター会長賞	奈　良	吉川　公彦	キク等(花苗)	
9回(11年度)	(財)日本花普及センター会長賞	徳　島	朝海　常祐	キク(切り花)	
9回(11年度)	(財)日本花普及センター会長賞	福　岡	高尾　保徳	ゴールドクレスト等(花木)	
9回(11年度)	(財)日本花普及センター会長賞	長　崎	小嶺　敏博	コウチョウラン等(鉢物)	
8回(10年度)	農林水産大臣賞	岐　阜	間宮　敏昭	ハイビスカス等(鉢物)	
8回(10年度)	農林水産大臣賞	福　岡	井上　茂之	トルコギキョウ等(切り花)	
8回(10年度)	農産園芸局長賞	埼　玉	戸谷　武雄	シュッコンアスター(切り花)	
8回(10年度)	農産園芸局長賞	静　岡	服部　一夫	クルクマ等(鉢物)	
8回(10年度)	農産園芸局長賞	京　都	清水　幸雄	ケンガイキク(鉢物)	
8回(10年度)	農産園芸局長賞	長　崎	鹿山　雅勝	カーネーション等(切り花)	
8回(10年度)	(財)日本花普及センター会長賞	新　潟	渡邉　和芳	ユリ(切り花)	
8回(10年度)	(財)日本花普及センター会長賞	三　重	松尾　廣文	シクラメン等(鉢物)	
8回(10年度)	(財)日本花普及センター会長賞	奈　良	吉本　利郎	バラ(切り花)	
7回(9年度)	農林水産大臣賞	宮　城	平間　久義	ハーブ等(苗物)	
7回(9年度)	農林水産大臣賞	静　岡	とびあ浜松農業協同組合 PCガーベラ販売部会	ガーベラ(切り花)	第37回農林水産祭 天皇杯受賞
7回(9年度)	農産園芸局長賞	青　森	竹ノ原幸悦	カーネーション等(切り花)	
7回(9年度)	農産園芸局長賞	埼　玉	立石　勝義	ポインセチア等(鉢物)	
7回(9年度)	農産園芸局長賞	福　岡	南嶋精二朗	ベゴニア等(苗物)	
7回(9年度)	農産園芸局長賞	長　崎	本田　敏秀	カーネーション等(切り花)	
7回(9年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岐　阜	フローラぎふOKI	カランコエ(鉢物)	
7回(9年度)	(財)日本花普及センター会長賞	京　都	月本　雅治	バラ(切り花)	
7回(9年度)	(財)日本花普及センター会長賞	兵　庫	中岡　邦康	カーネーション(切り花)	
7回(9年度)	(財)日本花普及センター会長賞	大　分	市川　一清	スイトピー等(切り花)	
7回(9年度)	(財)日本花普及センター会長賞	沖　縄	渡久山　稔	キク(切り花)	
6回(8年度)	農林水産大臣賞	栃　木	菱沼　軍次	シクラメン等(鉢物)	
6回(8年度)	農林水産大臣賞	静　岡	大庭　孝史	パキラ等(観葉植物)	
6回(8年度)	農産園芸局長賞	埼　玉	新　　博之	カランコエ等(鉢物)	
6回(8年度)	農産園芸局長賞	京　都	寺内　一郎	パンジー等(苗物)	
6回(8年度)	農産園芸局長賞	福　岡	大隈　博幸	バラ等(切り花)	
6回(8年度)	農産園芸局長賞	沖　縄	外間　勝義	キク等(切り花)	
6回(8年度)	(財)日本花普及センター会長賞	宮　城	斉藤　達義	シクラメン等(鉢物)	
6回(8年度)	(財)日本花普及センター会長賞	群　馬	小嶋　　宏	バラ(切り花)	
6回(8年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岐　阜	安保　幹太	シンピジウム等(鉢物)	
6回(8年度)	(財)日本花普及センター会長賞	奈　良	堀田　泰規	プリムラ等(苗物)	
6回(8年度)	(財)日本花普及センター会長賞	高　知	広岡　　稔	アイリス等(切り花)	
6回(8年度)	(財)日本花普及センター会長賞	高　知	小池　龍善	キク等(切り花)	
5回(7年度)	農林水産大臣賞	岐阜	福田　　誠	セントポーリア等(苗物)	
5回(7年度)	農林水産大臣賞	福岡	波佐間　廣美	ディフェバキア等(観葉植物)	
5回(7年度)	農産園芸局長賞	群馬	萩原　久雄	シクラメン等(鉢物)	
5回(7年度)	農産園芸局長賞	埼玉	千野　純一	インパチェンス等(鉢物)	
5回(7年度)	農産園芸局長賞	大分	飯田花き生産組合 (代表)時松　　謙	バラ等(切り花)	
5回(7年度)	農産園芸局長賞	沖縄	宮平　憲勇	キク(切り花)	
5回(7年度)	(財)日本花普及センター会長賞	宮城	手島　　徹	シクラメン等(鉢物)	
5回(7年度)	(財)日本花普及センター会長賞	長野	金本　達夫	バラ(切り花)	
5回(7年度)	(財)日本花普及センター会長賞	京都	矢野　伸太郎	ストック(切り花)	
5回(7年度)	(財)日本花普及センター会長賞	奈良	多田　　護	ベニカナメモチ(植木)	
5回(7年度)	(財)日本花普及センター会長賞	佐賀	水田　義雄	キク(切り花)	

回(年度)	受賞区分	都道府県	受賞者名	生産品目	備　考
4回(6年度)	農林水産大臣賞	宮城	渡辺　　俊	シクラメン等(鉢物)	
4回(6年度)	農林水産大臣賞	埼玉	金子　　正	カラジューム等(鉢物)	
4回(6年度)	農産園芸局長賞	群馬	中山　忠義	洋ラン(切り花・鉢物)	
4回(6年度)	農産園芸局長賞	福岡	和佐野　喜代太	コチョウラン等(鉢物)	
4回(6年度)	農産園芸局長賞	佐賀	中江　広域	キク(切り花)	
4回(6年度)	農産園芸局長賞	大分	志賀　智貴	ユリ(切り花)	
4回(6年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岩手	木村　勇一	プラグ苗等(苗物)	
4回(6年度)	(財)日本花普及センター会長賞	岐阜	林　　一郎	ポインセチア等(鉢物)	
4回(6年度)	(財)日本花普及センター会長賞	奈良	明崎　勝治	ダリア等(切り花・球根生産)	
4回(6年度)	(財)日本花普及センター会長賞	長崎	町田　一弘	スイトピー等(切り花)	
4回(6年度)	(財)日本花普及センター会長賞	鹿児島	利田　正明	カーネーション等(切り花)	
3回(5年度)	農林水産大臣賞	茨城	鈴木　　隆	ホウズキ等(鉢物)	
3回(5年度)	農林水産大臣賞	沖縄	亀谷　英雄	キク等(切り花)	
3回(5年度)	農産園芸局長賞	秋田	三浦　康之	トルコギキョウ等(切り花)	
3回(5年度)	農産園芸局長賞	群馬	小内　敬一	アジサイ等(鉢物)	
3回(5年度)	農産園芸局長賞	埼玉	矢作　文夫	カトレア等(鉢物)	
3回(5年度)	農産園芸局長賞	高知	山崎　廣美	ユリ等(切り花)	
3回(5年度)	(財)日本花普及センター会長賞	京都	森島　衛樹	ハナショウブ等(切り花)	
3回(5年度)	(財)日本花普及センター会長賞	奈良	吉川　喜一	シクラメン等(鉢物)	
3回(5年度)	(財)日本花普及センター会長賞	広島	沖野　高人	(花木)	
3回(5年度)	(財)日本花普及センター会長賞	福岡	田代　恒夫	バラ等(切り花)	
2回(4年度)	農林水産大臣賞	栃木	渡辺　武雄	コチョウラン等(鉢物)	
2回(4年度)	農林水産大臣賞	静岡	渡辺　　偉	クレマチス等(苗物)	
2回(4年度)	農産園芸局長賞	岩手	畠山　正徳	リンドウ等(切り花)	
2回(4年度)	農産園芸局長賞	群馬	大沢　憲一	バラ(切り花)	
2回(4年度)	農産園芸局長賞	東京	浅沼　一治	フェニックス等(鉢物)	
2回(4年度)	農産園芸局長賞	福岡	和佐野勝次	リンドウ等(切り花)	
2回(4年度)	(財)日本花普及センター会長賞	埼玉	町田　静吾	バラ(切り花)	
2回(4年度)	(財)日本花普及センター会長賞	長野	竹内　栄一	バラ(切り花)	
2回(4年度)	(財)日本花普及センター会長賞	京都	今村　喜和	キク等(切り花)	
2回(4年度)	(財)日本花普及センター会長賞	奈良	吉村　隆明	インパチェンス等(鉢物)	
2回(4年度)	(財)日本花普及センター会長賞	大分	藤原　博文	キク(切り花)	
1回(3年度)	農林水産大臣賞	岩手	猿子　恵久	アルストロメリア等(切り花)	
1回(3年度)	農林水産大臣賞	埼玉	本多　忠夫	シクラメン等(鉢物)	
1回(3年度)	農産園芸局長賞	栃木	菱沼　軍次	シクラメン等(鉢物)	
1回(3年度)	農産園芸局長賞	群馬	阪本　正次	アジサイ等(鉢物)	
1回(3年度)	農産園芸局長賞	長野	筒井　基博	シクラメン等(鉢物)	
1回(3年度)	農産園芸局長賞	岐阜	河本　弘元	バラ(切り花)	
1回(3年度)	(財)日本花普及センター会長賞	静岡	岩倉　廣治	(観葉植物)	
1回(3年度)	(財)日本花普及センター会長賞	京都	完岡　義清	カキツバタ(切り花)	
1回(3年度)	(財)日本花普及センター会長賞	広島	中本　博文	ハボタン等(苗物)	
1回(3年度)	(財)日本花普及センター会長賞	大分	時松　　謙	バラ等(切り花)	

（参考資料２）

第２３回花の国づくり共励会花き技術・経営コンクール実施要領

１．目　的

我が国の園芸の将来を担い、かつ国民生活に潤いと安らぎをもたらすものとして重要な役割を担っている花きについて、生産分野の技術・経営の向上・発展を図ることを目的とする。

２．開催団体

（１）主　催　財団法人日本花普及センター
（２）後　援　農林水産省
（３）協　賛　一般社団法人日本花き生産協会
一般社団法人日本花き卸売市場協会
一般社団法人全国農業改良普及支援協会

３．出品資格

露地花きにあっては栽培面積が１ha 以上、施設花きにあっては栽培面積が５０ａ以上の花き生産を主とする農業者等であって、技術・経営に優れ、地域社会に支持と共感を得ているものとする。

４．出品方法

出品は、自薦、他薦を問わず、「花の国づくり共励会－花き技術・経営コンクール応募用紙（別添１、２）」に所定の事項を書き込み、それに基づく経営及び活動の記録等の必要な資料を添付して提出する。

５．審査方法

（１）予備審査

財団法人日本花普及センターは、自薦、他薦を問わず応募用紙が提出された出品財について、書類審査等により本審査の対象となる出品財を選考する。

（２）本審査

付属資料２の審査委員は、付属資料１の審査基準に基づき書類審査、必要に応じて現地調査を実施して、公正な審査を行う。

６．表　彰

（１）特に優秀と認められた出品財に対して農林水産大臣賞（２点）、優秀と認められた出品財に対して生産局長賞（４点）、財団法人日本花普及センター会長賞（数点）をそれぞれ授与する。
（２）農林水産大臣賞出品財は、国の定める「農林水産祭表彰要領」に基づき天皇杯等の選賞資格を有する。

（3）次に掲げる基準のいずれかに該当し、かつ経営主の配偶者の貢献度が高いと認められる場合にあっては、夫婦連名で表彰することができる。

但し、農林水産祭参加行事の農林水産大臣賞並びに生産局長賞に限る。

① 家族経営協定を締結していること。

② 推薦書等において経営主の配偶者の作業分担、従事日数等が概ね５割に達していると確認できること。

③ 農業改良普及センターなどの現場指導組織による意見書が添付されていること

なお、推薦の段階で夫婦連名であるものについては、財団法人日本花普及センター会長賞についてもこれに準ずる。

７．事　務　局

標記コンクールを実施するため、事務局を財団法人日本花普及センター内に設置する。

８．開催日程

（1）出品募集期間　　平成２５年８月下旬～１１月３０日

（2）予備審査　　平成２５年１２月

（3）本審査　　平成２６年１月下旬

（4）現地調査　　平成２６年２月中旬～２月下旬

（5）表彰式　　平成２６年３月中旬

（付属資料１）

花き技術・経営コンクール審査基準

1　立地条件を活かした合理的、安定的な経営であること
2　経営に計画性と展望をもち、近代化、拡大化の方向をたどっていること
3　消費動向を的確にとらえ、消費者ニーズに応える経営を行っていること
4　栽培技術は、科学的基礎に基づき、その水準が高く優れ、改善意欲が盛んなこと
5　生産基盤の整備、資本整備の投資がかなり行われ、その利用効率が高いこと
6　土地利用及び労働力利用が合理的であること
7　生産性が高く所得が水準以上と認められること
8　労働軽減等により、ゆとりある農業を実現していること
9　環境保全に対する工夫や配慮が見られること
10　国際化対応を考慮した経営がなされていること

（付属資料２）

第23回(平成25年度）花き技術･経営コンクール審査会委員名簿

氏　名	所　属　・　役　職
腰岡政二	日本大学生物資源科学部　教授
土井元章	京都大学大学院　教授
河野恵伸	独立行政法人農業･食品産業技術総合研究機構 中央農業総合研究センター　食農連携プロジェクト　リーダー
長村智司	一般社団法人フラワーソサイエティ　会長
田島鉄弥	一般社団法人日本花き生産協会　会長
長岡　求	株式会社フラワーオークションジャパン　取締役

第２３回花の国づくり共励会

花き技術・経営コンクール受賞者の業績概要

平成２６年３月発行

編集・発行　一般財団法人日本花普及センター
〒103-0004　東京都中央区東日本橋３－６－１７　山一ビル４階
TEL：０３－３６６４－８７３９　　FAX：０３－３６６４－８７４３
e-mail：jfpc.@jfpc.or.jp　　URL：http://www.jfpc.or.jp

いいこと
あった日、
花を買う。

花っていいよね。キャンペーン